

【参考資料】

思いや意図に合った表現をするために必要な技能の習得 ～「威風堂々」器楽指導の例～

Q 1 児童の思いや意図に合った表現をするために、どのようなアドバイスをしたらよいか？

小学校学習指導要領解説 P95 より

※ 器楽表現が豊かになったことを教師が価値づけ、全体で共有していくことも教師の大切な役割である。

※ また、児童が工夫した表現を互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを認め合う体験を積み重ねることも大切なことである。

A 1 - ①楽器編成を見直す。

- ・ 1 回目の楽器の種類を減らして、楽器の数を徐々に増やす。
- ・ 最後の部分をより大きくするには、楽器の数を徐々に増やし、さらに打楽器を入れる。
- ・ 華やかにするには、後半から旋律にグロッケン等音質の異なる楽器を重ねる。
- ・ 楽器の音域を変える。音質の異なる楽器（マレット）に変える。

A 1 - ②音の強弱を考える。

- ・ だんだんと強くする方法を楽器ごとに具体的に教える。
（例：ほどよい音量にするために打楽器の打つ力、ばちと楽器の距離などの関係を考えさせる。単に力任せにしないようにする。）
- ・ 全員で最初をととても弱く演奏し、徐々にだんだん強くしていく。
（音が汚くならないように留意が必要である。）
- ・ だんだん強くしていく場所や一番盛り上がる場所の音量をグループで考え、音で確かめる。

Q 2 音楽の縦や音の重なりを合わせて演奏したい時の指導は？

A 2 - ①下 4 パートを合わせたい時

- ・ リーダーが体で拍をとり、目で見ながら音を共有する。
- ・ 前拍 4 拍をスティック等で打つ。
- ・ 前奏をつける（例：ドミンソなどの曲の始めの伴奏で使われている和音を 4 回鳴らす）
- ・ 8 分音符で拍をとる。
- ・ ②～⑤の 4 音を一人で担当する。（一人で 4 音出す）
- ・ メトロノームを前に置いて、合わせてみる。
- ・ 伴奏を聴いて合わせてみる。（伴奏だけで演奏してみる。）
- ・ 手拍子をするなど体で拍を取りながら合わせてみる。
- ・ 歌やリズム唱をしてみる。

A 2 - ②rit.（リタルダンド：だんだん遅く）の速さを合わせたい時

- ・ 全員で歌ってみて、速さを調節する。
- ・ 手本となる音源をよく聴き真似をする。
- ・ 音源を聴きながら演奏する。慣れてきたら自分の好みの rit. で演奏する。
- ・ 慣れるまで歌ったり、指揮を入れたりする。
- ・ 2 人→3 人→4 人……と人数を増やして練習していき、速さに慣れていく。

Q 3 バランスを考えて演奏したい時の指導は？

A 3-①音量のバランスを考えたい時

- 各楽器の音量を考えた人数配分にする。
- 主な旋律を演奏する楽器の聴こえ方を確認し、バランスを考えながら組み合わせを考える。

例：旋律がリコーダーの場合はパートの人数を増やす。打楽器は各1にする等

例：リコーダーは強弱が難しく、息が弱いと音の高さ（ピッチ）が変わることがあるため、徐々に人数を増やして強弱を表す等

- ICT端末等で録画・録音し、教員、児童が客観的にバランスを確認する。
- 打楽器の奏法を変える。

例：シンバルを1枚にしてバチで打つ。タンブリンを指先で打つ奏法と左手で振る奏法にする等

A 3-②特定の楽器の音が目立ってしまう時

- 特定の楽器の音が目立ってしまったたり、聴き取りにくかったりする等、バランスが悪い場合は、楽器の配置（立ち位置）を考える。
- 組み合わせを見直す。
- 同じ素材の楽器等、偏りがある場合は、音質の違う楽器を組み合わせる。

例：下4パートが全て鍵盤ハーモニカの場合は、1番下の音を、低音を出すことのできる電子キーボードやピアノ等でさらに重ねる。

例：打楽器の素材が全て「皮がはってある楽器」のみの場合等は、「金属」や「木」でできている楽器も組み合わせてみる等

- マレット（ばち）のかたさを変える。

例：鉄琴やシンバル等のばちを変えて、グループのイメージに合うものに変える。「毛糸まき」「糸まき」「プラスチック」「ゴム」等の様々な種類を用意しておき、児童に音を出しながら試させ、イメージに合うものを決めていく。

Q 4 フレーズのまとまりを生かして演奏したい時の指導は？

A 4 - ①旋律を歌って確かめる。

リコーダーではうまく吹けない場合も、歌で同じ部分を表現することで表現したいイメージがつかめることがある。

A 4 - ②イメージを合わせるために図形や色で示す。



例：

T：この部分に合う音の形はどれだと思いますか？

T：その図形になるために、どう息を吸いますか？

T：その図形のように終わるには、音をどう止めますか？

A 4 - ③プレスを合わせる（そろえる）。

A 4 - ④スラーがついていない部分の、一つ一つの音の切り方やつなぎ方をそろえる。（例：リコーダー）

ア

●音と音の間に短い隙間をつくって演奏

イ

●息の流れを切らずに、1音ずつタンギングしながら、滑らかに演奏

ウ

●最初の音だけタンギングをし、その後は息の流れを切らずに演奏

例：

T：スラーがついていない部分は、どうしますか。どれが曲のイメージに合っていますか。